

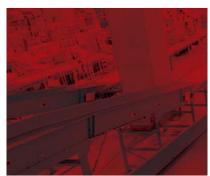








CSR Report 2015



















SBSグループのCSR

SBSグループのCSRは、経営理念と行動基準からなるSBSグループ行動憲章に基づいています。

SBSグループがよき企業市民であり続けるために、この経営理念を事業を通じて実現し、 社会に貢献することこそが私たちのCSRであると考えています。

SBSグループ行動憲章

経営理念

われわれの提案するサービスによって、

お客様に喜ばれ、株主に喜ばれ、

そして社員の幸せにつながる会社を目指す。

企業の永遠の繁栄は、人を大事にすることにある。 みなが生き生きと働くことが繁栄をもたらす。

社会的責任なくして企業の発展はあり得ない。 社会と共に生き、人々に喜ばれ、

広く内外社会の発展に貢献する。

行動基準

1 コーポレート・ガバナンスの推進

2 お客様第一主義

3 公正で透明性のある企業活動

4 社会貢献と環境への配慮

5 法令・規程の遵守

6 働きがいのある職場づくり



CSR Report 2015

編集方針

本報告書はステークホルダーの皆様に、SBSグループのCSR の考え方、安全や環境などへの姿勢と取り組みについて、より理解を深めていただくために作成いたしました。様々な方々にお読みいただけるようにわかりやすさを心がけました。ご一読いただければ幸いです。

Contents

トップメッセージ

SBSグループの 事業基盤

社会貢献性も内包 する館内物流 ソリューション

SBSグループのCSR経営

安全の確保

事故ゼロを 目指して

環境への配慮

3つの柱 (車両・施設・社員)に よる環境配慮

社会との調和

ステークホルダーとの 関係維持

CSRデータ 2014

健全な経営

コンプライアンスの 維持

第三者意見

[対象範囲] SBSグループ各社の活動実績 ※海外拠点については実績数値報告には含みません。

[対象期間] 2014年4月1日~2015年3月31日の活動を対象とし、一部に対象期間外のものも含みます。

[参考情報] 環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)

GRI「サステナビリティ・レポーティング・ガイドライン2006」

「その他情報」本報告書はSBSホールディングスのウェブサイトからもダウンロードできます。

【提供手段 】 (http://www.sbs-group.co.jp)

[発行]2015年9月(次回発行予定2016年8月)

CSRについてのお問合せ

CSR推進部

TEL:03-3829-2367(直通) FAX:03-3829-2822

企業情報全般についてのお問合せ

IR·広報部

TEL:03-3829-2240(直通)

IR財務情報

http://www.sbs-group.co.jp/hdg/ir/

企業活動を通じて社会的価値を創造



■ 社会インフラを担う責任

2014年度の日本経済は、企業収益や雇用情勢の改善に伴い緩やかな回復基調で推移いたしましたが、他方で消費増税や天候不順、円安による物価上昇などの影響を受けて個人消費が落ち込み、先行きへの不安材料を抱えた状況で推移いたしました。

物流業界におきましては、原油価格の下落による燃料 価格の低下はあったものの、個人消費関連の貨物輸送 は苦戦を強いられ、またドライバー不足を受けた傭車費、 人件費の上昇により厳しい経営環境となりました。

このような環境のなか、SBSグループは業界トップグループ入りを目指し、中期経営計画「SBS Growth2017 (2014年度から2017年度までの4年間)」をスタートさせました。

初年度は、提案営業の強化により新規業務の開拓に 注力したほか、大規模物流施設の開発や海外M&Aへの 大型投資を実施しましたが、これらは中期経営計画の目 標の一つであるグループ売上高2,000億円達成への大 きな布石となると考えております。

■ "CSR経営の推進"への取り組み

中期経営計画「SBS Growth2017」における重点目標の一つである"CSR経営の推進"についてこの1年を振り返りますと、コンプライアンスを重視した健全な経営を基本方針とし、「安全の確保」、「環境への配慮」、「社会との調和」とそれぞれの課題に対する活動を展開してまいりました。



く安全の確保>

最重要課題である安全の確保については、原点に立ち返った基本の実践をテーマに社内研修など様々な機会を通じて交通事故の撲滅に努めました。また、ドライバーの健康診断結果への徹底フォローおよびSASスクリーニング検査の完全実施を進めるなど、きめ細かな健康管理に努めてまいりました。

<環境への配慮>

環境への配慮については、「環境アクションプラン2017」達成に向け、エコ・安全ドライブの継続的推進を進めるなか、「東京都貨物輸送評価制度」においてグループ2社が燃費改善の体制やCO2削減への取り組みについて一定の評価を収めるなど、その成果が表れる結果となりました。また、国内10事業拠点において太陽光発電設備を設置し、クリーンエネルギー供給実績を着実に積みあげております。

<社会との調和>

社会との調和については、人材育成・安全衛生を中心とした取り組みの共通化および管理部門の統合推進によるグループ内融和を進める一方で、社会貢献活動の活性を図るため、グループ社会貢献表彰制度を開始したほか、公益財団法人の設立にも着手し、社内外の信頼関係構築に努めてまいりました。

■ 企業活動を通じて社会的価値を創造

今後も私たちSBSグループは、企業活動を通じて社会 的価値を創造し、ステークホルダーの皆様から安心と信 頼を得る企業を目指してまいります。

今後ともより一層のご支援、ご指導を賜りますようよろ しくお願い申し上げます。

SBSグループ代表 静田正芳

SBSグループの事業基盤

SBSグループは、あらゆる産業につながり、経済活動に必要不可欠な社会基盤のひとつである物流を事業領域としており、持株会社であるSBSホールディングス(株)のもと、大きく2つの事業で構成されています。





グループデータ

[拠点数] 国内約330拠点

(うち物流施設数約160か所)

[倉庫面積] 約30万坪(自社保有10万坪)

[車両数] 約3,000台(傭車5,000台/月)

[従業員] 14,084名(パートなど含む、正社員5,572人)

2014年12月末現在

海外グループ

SBS Logistics Holdings Singapore Pte. Ltd.

— SBS Total Logistics Malaysia Sdn. Bhd.

— SBS Logistics Vietnam Co., Ltd.

— SBS Logistics (Thailand) Co., Ltd.

TAS Logistics Co., Ltd.

— SBS Logistics Holdings Hong Kong Ltd.

— SBS Logistics Hong Kong Ltd.

— SBS Transpole Logistics Pvt. Ltd.

- SBS Transpole Logistics Holdings Co. Ltd.

(Hong Kong)

— Transpole Logistics Pvt. Ltd. (Hong Kong)

- SBS Transpole Logistics Pte. Ltd.

(Singapore)

Atlas Logistics Pvt. Ltd. (India)

2014年12月末現在

物流事業

• 3PL

(サードパーティロジスティクス)

- トラック運送
- 低温物流
- 物流センター運営
- 流通加工
- 館内物流
- ●国際物流
- ●企業向け即日配送
- 法人移転·個人引越
- 鉄道利用物流
- 物流コンサルティング

SBSグループ企業と主な事業

SBSロジコム

3PL·トラック運送·センター運営·館内物流・ 通運·国際物流

SBSフレック

食品物流(3温度帯)センター運営・宅配

SBSゼンツウ

食品物流(3温度帯)センター運営、流通加工、食品宅配

SBS即配サポート

企業向け即日配送(1都3県)、店舗什器の製造・物流

SBSフレイトサービス

3温度帯路線輸送、特殊輸送、海上コンテナのドレージ輸送

SBSトランスポート

定温輸送、センター運営、法人移転・引越

日本レコードセンター

パッケージソフト(CDやDVD)の共同配送、ネット通販

SBSグローバルネットワーク

国際物流(海外輸送、輸出入管理、通関手続き、保管、集荷・配送)













物流支援事業

[不動産]

- ●物流施設の開発・販売事業
- 不動産賃貸事業

[その他]

- 人材事業
- ●環境事業
- ▼ーケティング事業
- リース・保険事業
- •太陽光発電事業 他

SBS即配サポート

一般・産業廃棄物の収集・運搬から中間処理、再資源化

SBSスタッフ

人材派遣、職業紹介、庫内作業請負

マーケティングパートナー

ECサイト構築・運営代行、EC通販運営

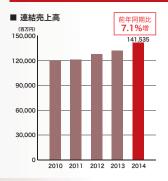
SBSファイナンス

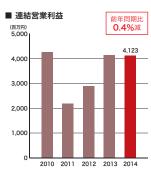
燃料・タイヤの共同購入、保険代理店

エーマックス

物流施設の開発および販売(不動産流動化)、不動産賃貸

事業データ









館内物流ソリューション誕生の背景

大型複合施設における各テナントや入居企業に送り届けられる荷物がそれぞれ個別に配送される煩雑さを解消するソリューションとして生まれたのが「館内物流ソリューション」です。当初のテーマは大量の荷物をどうさばいて、いかに迅速確実に送り届けるかということでした。

その後、物流車両による周辺環境への影響問題や、セキュリティ対応など、周辺の課題も意識されるようになり、それらを見据えた付加価値のある取り組みが、新しい館内物流ソリューションとして生まれています。

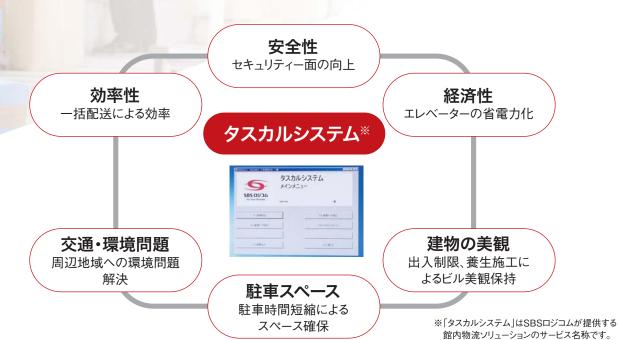


館内物流の新ソリューション

1回日

SBSロジコムの館内物流ソリューションは、綿密な調査とシミュレーションに基づいて、現場での荷物と運ぶ車両や人の流れを最適化するための仕組みです。この仕組みによって、荷物の入出荷業務を円滑に進めつつ、周辺

道路への悪影響も抑えられます。また、荷物・車両・出入 業者を一元管理する効率性とともに、セキュリティと経 済性をいっそう高く保ち、お客様と社会とに幅広いメリットを提供します。



お客様のニーズに応え、進化してきた館内物流ソリューション

2000

渋谷マークシティ

・館内物流の基盤作り

2007

ThinkPark Tower (シンクパーク タワー/大崎)

- ・館内物流の環境改善・セキュリティ対策への 取り組み
- **2010 O**
 - 参議院議員会館

2011

ニ子玉川ライズ | 期

2012

中野セントラルパーク

・セキュリティ強化

2015

二子玉川ライズ川期

・社会貢献を担うソリューションへ

他のサービスと連携し、 次なるステップへ

●CSRの意識は、物流作業環境の改善から芽生える

渋谷マークシティがオープンした2000年頃は、館内物流の概念も 明確ではなく、担当したSBSロジコムの業務もまだ、宅配便の館内配 送に限定されたものでした。

2007年にオープンしたThinkPark Tower(シンクパーク タワー/大崎)からは、直納業者への対応に加え、登録業者証や駐車券と入館ICカードによる管理体制を導入しました。また、施設の設計段階から参画することで、館内物流の環境改善を図りました。例えば、荷物搬送路におい

ては台車がすれ違える広さを確保したり、ドアの透過視認性を高めたり、クランクする場所にはミラーを付けるなど、スムーズでかつ安全に配送できる施設を構築しました。



●セキュリティへの取り組みからさらなる公共の付加価値へ

ThinkPark Tower以降、2010年に建て替えられた参議院議員会館、2012年オープンの中野セントラルパークでも、セキュリティが重視されるようになりました。この時期から、館内物流ソリューションは荷物の円滑な配送にとどまらず、館内物流に関わるお客様・テナント・ビル

管理者・近隣地域など多くの 人々に、より高い価値を生み 出すソリューションの構築と いう新たなステージへとス テップアップしました。



館内物流ソリューションは、サービス業

nterview

より望ましい館内物流の現場づくりのため、物流動線の段差をなくす提案など、早い段階から建築業者側や施主様側に対して伝えていくのが私のミッションと考えています。

この仕事は単なる物流業務ではありません。スタッフには「館内物流をサービス業として認識して下さい」と指導しており、今のところは良い方向に成長しているなと感じています。また、危険度の低い現場なので障がいを持つ方が働きやすい環境も整えられると考えています。

物流は当たり前の社会インフラですが、館内物流には今後もさまざまな付加価値が見いだせますね。CSRにとどまらず、社会貢献をより高い次元で実現できるのでCSVの観点からも有意義だと思っています。



省エネや周辺環境対策も進む、次世代の館内物流

2015年5月に第2期開発分の「テラス・マーケット」がオープンして、「二子玉川ライズ・ショッピングセンター(以下、「ライズ」)」は国内最大規模の複合施設となりました。6,000㎡の地下食料品売場や300店余りのテナントショップ、オフィス棟などが業務展開する広大な施設です。

の複合施設となりました。6,000mの地下食料品売場や300店余り テナントショップ、オフィス棟などが業務展開する広大な施設です。 テナント直納の荷物は入館管理された業者が直接届けますが、それ

以外の毎月4,000個を越える荷物は3つの荷さばき場で引き取られてSBSロジコムの管理下に移ります。バーコードや伝票スキャンデータベースなどを組み込んだ独自の管理システムのもと、荷物は速やかに計画配送されます。これによりエレベーターの使用頻度は4割程度低減され、省電力化にも貢献しています。

また、毎日600台余りの物流トラックが出入りしますが、道路上に滞留することはありません。綿密な入出館スケジュールが運用されており、周辺道路の渋滞緩和やCO₂削減効果も見込まれます。このように、ライズの館内物流は、省電力化と合わせて周辺環境対策面からも成果を上げています。



搬入口

朝の搬入ピーク時でも公道に車両が 溢れることはない



トラックバース

綿密な入退館スケ ジュールを行い、最 小限の駐車スペー スで円滑に運用



荷さばき場

段差をなくしフラット な設計にすることで 積おろし作業の負 担を軽減



館内配送

届いた荷物は滞留 することなく配送す ることで、小スペー ス化を実現



ライズの ロゴ入り制服

集配に特化スタッフではなく、施設のスタッフの一員として 従事



台車の プロテクター

ビル内の壁をこすっ ても傷をつけないエ 大



セキュリティボックス サービス

SBS即配サポートが 館内から発生する各 種機密情報媒体の 情報を抹消し資源化



職場体験

館内物流を通じ、働 くことの大切さを学 ぶ機会を中学生な どに提供



従業者イベント への参加

テナントで働く方や 施設スタッフとの交 流を図る(写真は運 動会)

お客様と親しく接しつつ、「できますよ」の幅を広げる

オープン当初は、館内物流の担当といってもよく理解してもらえませんでしたが、説明会を繰り返すなかで、やがて館内物流業者SBSという認識が浸透していきました。我々は物流の常駐スタッフであり、制服の背中には施設のロゴを背負っていますのでテナント従業員や来場客の皆さんと親しく会話も交わす機会も少なくありません。

私はライズ様への営業活動の段階から関わっていますので、我々のような現場スタッフと営業担当者とが同行すれば、強力な営業提案もできるでしょう。たとえばオフィスから出る廃棄物の溶解処理など実際に付加価値のある提案をさせていただいています。今後とも、お客様に対して「できますよ」と提案できる幅をより広げていきたいと思っています。







■運輸安全マネジメント

グループの運輸安全体制

グループの運輸安全強化を図るためSBSホールディングス・SBSロジコム・SBSフレック3社の運輸安全マネジメント部門を統合し、物流品質管理部を編成いたしました。また、その推進機関としてグループ各社の推進委員で構成する「運輸安全推進会議」を設置し、運輸安全に係る様々な情報の共有を行うとともに、事故の防止対策、安全教育などの企画・推進に取り組んでいます。



SBSグループ運輸安全マネジメント体制図



■安全意識の徹底

安全教育

SBSグループでは、運転技術の確認と危険予知トレーニングを中心とした「安全運転研修会」、「エコ・安全ドライブ研修」、運行管理と労務管理をテーマにカリキュラムを展開する「物流品質セミナー」、その他「フォークリフト安全運転研修会」など、それぞれの役割に応じた様々なグループ安全教育を定期的に行っております。また、グループ各社においても個々に安全教育を展開することで運輸安全の維持・向上を図っています。









安全教育の実績 ※各社個別の教育は除く	
安全運転研修会(運転実技・危険予知トレーニング)	年3回
エコ・安全ドライブ研修(エコドライブ・危険予知トレーニング)	年4回
フォークリフト安全運転研修会(運転実技・危険予知トレーニング)	年3回
物流品質セミナー(運輸安全・労務管理・安全衛生)	年2回
運行管理者向け一般適性診断活用講座(運行管理)	年4回
合同管理者安全研修(運輸安全)	年6回

意識啓発

SBSグループでは、ドライブレコーダーに記録された ヒヤリハット映像を収集・分析し、様々なケースに対応し て事例をストック。ドライバー・運行管理者向けのKYT (危険予知トレーニング)に利用している他、その他教育 素材としても幅広い活用を行っています。





安全スローガン

毎年、グループ「安全スローガン」をグループ従業員の応募作品から決定します。今年度の作品は5,213件の中から選ばれました。

平成27年度 SBSグループ [安全スローガン]

SBS GROUP

大切な命と積荷



平成27年度 SBSグループ安全スローガン 最優秀賞 受賞者

SBSロジコム 東扇島支店 **飯田 誠**

私は荷主様からお預かりした品物をトラック輸送するドライバーであり、それで生計を立てている言わばプロです。しかし、一歩間違えれば事故の当事者となり、日々自分を支えてくれている家族や仲間を苦しめることになります。"そんな思いはさせない!" "事故は起こさない!"というプロとしてのプライドをこのスローガンに込めました。これからも、大切な人達を守る為に意思を強く持ち、毎日の仕事に向き合っていきます。



oice

安全対策の強化

安全運転管理

①安全運転を管理する

SBSグループでは、安全意識の向上と安全運転管理 の徹底を図るために「デジタルタコグラフ」と「ドライブレ コーダー」の導入を推進しています。なお、今現在、安全 管理統制の標準化および合理化を見据え、これらの機器 のグループ統一化を検討しており、運輸安全推進会議を 中心に次世代機種選定の勉強会を行っています。

◎デジタルタコメーター装着 ………… 1,672台

◎ドライブレコーダー装着 …………… 1.672台

◎バックアイカメラ装着 ……………… 2.349台

健康管理

健康起因事故を防止するた め、「健康診断と二次検診の フォロー・SAS(睡眠時無呼吸 症候群)スクリーニング検査」を より一層徹底しています。また、



健康維持にはご家族の協力が必要不可欠と考え、書面な どで「体調管理への配慮のお願い」をしています。また、 SBSグループ全事業所に「血圧計」を設置し、出庫前の計 測を推進しています。

技術向上

技術と意識の向上、および社内交流の活性にも有効な 「ドライバーコンテスト」。今はまだSBSゼンツウのみの実 施となっていますが、2015年の秋にはSBSグループの 「ドライバーコンテスト」を実施する予定です。



信頼性

各事業所の安全管理体制適正化と信頼性アップを目 的にグループを挙げてGマーク取得を推進しています。 2014年度は前年までに認定の97事業所から107事業 所に増加。取得率は80%に達しました。

※詳細はCSR DATAのページをご覧ください。

②駐車時の安全を確保する

止め方を見れば、会社の実力が分かると言われる「輪止 め」。SBSグループでは目立つ色で安全をお見せします。







③作業の安全を確保する

SBSグループでは、物流品質 と労働安全を目的に様々なマ ニュアルを発行・配布しています。



安全衛生管理

「健康管理」、「労務管理」、 「安全管理」の項目で構成され た「安全衛生管理チェックリス ト」を全事業所に配布し、年3回 の自己点検を実施しています。



不備項目には改善策の立案が求められます。これによって 改善状況を常に意識し徹底してもらうことが狙いです。ま た、監査部門による「業務監査」と合わせて「事後巡回フォ ロー」を行っており、適正な管理の維持に努めています。









安全の確保

原点に立ち返り基本の徹底を。

ここでは、グループ運輸安全マネジメント推進の中心となるSBSホールディングス物流品質管理部長に 輸送の安全確保に向けた取り組み状況および決意等を聞きました。

Q. グループの運輸安全管理体制の 統合組織化について

グループの運輸安全マネジメントを推進す A. べくSBSホールディングス・SBSロジコム・ SBSフレックの運輸安全部門が統合されて「物流品質 管理部」が組織されました。SBSグループは復数の運 送事業者がホールディングスの下に集まっております。 従って、ルール・取り組み方も様々です。「物流品質管理 部」の役割はそれらの標準化も含めたグループの運輸 安全体制の確立と輸送の安全確保の推進にあります。

Q. 輸送の安全確保の推進状況について

点呼や健康・車両管理等、安全に対する基 本の実践とその徹底・強化および見直しをグ ループ各社に推進しています。なかでも、健康に関して は、乗務員の健康状態の把握(SAS(睡眠時無呼吸症 候群)スクリーニング検査、定期健診と二次検診のフォ ロー、点呼前血圧測定)完全実施に努めています。ま た、SBSグループ全ての物流事業所に対して、どんな些 細な事故でも逐一報告するよう改めて啓発しており、報 告体制の強化に努めています。軽い事故でも大事故に つながったかもしれないとして、事故の教訓をグループ 全体で共有するためです。報告された情報は傾向分析 を行うとともに、ヒヤリハット事例としてストックし、KY T教育素材としてグループ安全教育に役立てています。



SBSホールディングス 物流品質管理部長

Q. 安全運転管理の推進について

「安全に生き帰りができることが一番の褒 賞」とするためには、全社統一の指標として「公 正公平な評価」に結びつく仕組みが必要であると考え ています。そのためには、グループで「デジタコ」「ドラレ コ」の仕様を統一し、安全管理の標準化を図る必要が あります。機器による運転操作評価によって危険挙動 運転・無理な運転を洗い出し、現場での具体的な改善 指導によって「事故の芽」を事前に摘み取ることで、事 故を起こしにくい運転を達成できれば、我々が願う事 故のない安全を実現することが可能となります。グルー プ3.000台の機器とルールの統一は、一朝一夕にいく ものではありませんが、具現化に向けて検討を続けて いきます。また、引き続きエコドライブの推進にも注力し ていきます。エコドライブは環境への取り組みの柱であ ると同時に、安全運転と事故撲滅に直結します。

Q. 最後に安全確保に向けた今後の決意を

私たちは安全を確保するために、ひとり一 人が当事者意識を持つ心がけが大切です。 誰もが加害者にも被害者にもなりえます。グループで 事故が起きた場合には、全員で何が起きたのか、原因 は何かを知り、その事例を自分に置き換えて考える必 要があります。そしてルールを厳しく守ることを習慣 化し、運転者は「事故を起こさない」管理者は「事故を 起こさせない」という気持ちを改めて確認せねばなり ません。それが自分自身の身体と生活、そして家族の ためでもあるからです。今年度の安全スローガンは 「大切な 命と積荷 守るプロ」です。第三者の命と自分 の命、そして積荷を守ることは私たちの使命だという ことを決して忘れず、グループー丸となって事故防止 に努めてまいりましょう。



■ SBSグループの環境負荷軽減の考え方

環境対策3つの柱

■ 資源循環サポート(SBS即配サポート)

中間処理工場を2拠点保有

廃棄物の運搬、解体、分別、破砕、圧縮及び資源の再資源化活動



[保有設備] 50tトラックスケール、 破砕機、圧縮機、溶融機 フロンガス回収装置、 磁気記録媒体破壊装置、 物理破壊装置 ※ISO14001、プライバシーマーク

車 両

- ・エコドライブ推進
- ・環境配慮型車両 の導入

■ 野田吉春物流センター



延床面積3万1,635㎡ LED:2,500基超 (従来比24%の消費電力削減効果を実現) 太陽光発電量:56万kWh/h その他非常用発電装置、耐震構造採用

CO2排出抑制 資源有効利用

施設

- ・省エネ化、省資源化
- ・再生エネルギー創出

利用

社 員

・環境意識の向上と 環境行動の啓発

■ モーダルシフト(SBSロジコム)



■ 半径5mの環境行動2015ポスター



環境アクションプラン2017 2009年のCO2排出量85,000トンを基準に、2017年までに、CO2全体排出量を基準より15%以上削減することをめざす ■重要課題・・・エコドライブの浸透 環境アクションプラン2013 2017年 72,250 t 基準年 (排出量計測開始) 76,000 t 2009年 85,000 t

2014年CO2全体排出量

80,294t (車両:61,079t、施設:19,215t) ※2013年:70,905t(車両:56,026t、施設:14,879t)

2014年度のCO2全体排出量は前年比13.2%の増加 という結果になりました。

その内訳は車両系で5,053t(前年比9%増)、施設系で4,336t(前年比21.9%)となっています。増加理由は、事業規模拡大に伴う車両数の増加(前年比7%増)および物流施設などの利用拡大によるものです。なお、その他資源利用状況については、CSRデータのページをご覧ください。

注:電力のCO2排出係数上昇に伴う加増が全体増加の約4割を占めています

■SBSグループのエコドライブ(省燃費走行)への取り組み

SBSグループでは、エコドライブ(省燃費走行)の浸透を教習(エコ・安全ドライブ研修)と実地(手書き燃費記録)の2軸で推進しています。

【教習】

「エコ・安全ドライブ研修」は定期的に実施しているエコドライブ教習で、これまでに1,000人以上の受講者を数えるエコドライブ推進の中心的取り組みです。

【実地】

Pick up

また、省燃費走行への意識啓発の一環として、乗務員への「手書き燃費記録」(給油量・走行距離・燃費)の実践を奨励しています。"まずは、自分の車を知ろう!"をテーマに2011年よりスタートしたこの手書き燃費記録の普及活動は、これまでグループ中3社が、「東京都貨物輸送評価制度*」の評価を獲得するに至っており、環境アクションプラン2017達成に向けて更なる推進強化を図っています。

エコドライブ受講生 1,169人(2014年12月末現在)

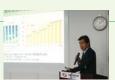
2014年はSBSロジコムとSBSトランスポートが 東京都貨物輸送評価制度の評価を獲得!



*評価は、エコドライブ教育の 充実ぶり、ドライバーと運行 管理者の二人三脚による 日々の燃費確認と向上努 力。さらに燃費記録の集計・ 分析の精度などの運営力、 そして平均燃費の優劣で行 われ、評価獲得が非常に難 しいとされる。

グリーン・エコ講習

車両管理担当者を対象に開催した 「グリーン・エコ講習」燃費向上への 取り組み強化が狙い



全従業員にエコドライブ講習を実施

SBSロジコム 吉川支店

普段から事業用車両のエコドライブに力を入れている当事業所が行ったのは、通勤車両の事故防止にエコドライブを取り入れることでした。「地球にやさしい。人にも財布にもやさしい。」をテーマにマイカー通勤者を対象に始まったエコドライブ講習は評判を呼び、普通自動車運転免許を保持する全従業員に広がりました。(この取り組みは、優良事例として埼玉県のホームページでも紹介されています。)





■社会貢献

交通安全活動

SBSグループは、公道を利用するトラック事業者として、交通安全の模範にならなければならないと考えています。安全・安心な交通社会の実現を願い、これからも地域の警察署・交通安全協会・トラック協会が実施する交通安全活動に積極的に協賛・協力していきます。

●子ども交通安全活動 「僕たち・私たちからの交通安全のお願い」





社会貢献表彰制度

社会貢献活動のさらなる活性化を図るために「SBSグループ社会貢献表彰制度」を開始しました。毎年末にCSR推進委員会において審査し、年初に表彰を行います。この制度では社会貢献活動の啓発に加え、より効果的な活動を見出すことが狙いです。初表彰は2016年1月を予定しています。

◆春の全国交通安全運動 「母のお願い~交通安全」







コーズマーケティング(マーケティングパートナー)

マーケティングパートナー(東京都千代田区神田)では犬を通じて支えあう活動を行っています。その中心は同社が自主運営するプレミアムペットフードサイトにおけるコーズマーケティング(寄付付商品の販売)です。2013年から始まったこの企画の対象商品は現在約400点。売上金の一部を支援団体に毎月寄付しています。今後はさらに支援の輪を拡げる予定です。





■人材育成

サービスドライバーの育成

SBSグループは主に企業間輸配送を行う一方で、流通事業主様向けに宅配業務のご支援もさせて頂いております。宅配業務に従事するドライバーは消費者である一般のお客様と直接コミュニケーションをとるため、身だしなみ・挨拶・話し方から商品知識にいたるまで顧客満足を高めるサービス力を身に着けなければなりません。サービスドライバーは安全に商品をお届けするだけでなく、思いやりもお届けします。



【生協様宅配】 SBSゼンツウ 事業支援部 教育指導 課長 成田 聖

安全運転および接客マナーなどの配送品質の向上には取り分けて気を遣います。また、一人として同じ人間はいないので人に合った指導方法をとることを心掛けています。生協宅配には「お客様からありがとうと言われる仕事をする」という大きな方針があります。「みだしなみ」、「挨拶」はもちろんのこと、心から"ありがとう"と言ってもらうために、思いやりを伝えるサービスをモットーとして指導しております。



【イオン様宅配】 SBSフレック事業本部 営業開発部 NS通販グループ 課長 浅川 隆明

イオン様の看板を背負って行うネットスーパーの配送は接客が最も重要です。新人クルー研修では、イオン様として行動することの意識、モラル・マナー、コンプライアンス、安全運転等を徹底指導しています。また、研修では「挨拶は「商品」である」と教えています。単に頭を下げて声を出すだけでなく、相手に気持ちを伝えることが大切だからです。真心を込めたお届けを第一に指導しております。

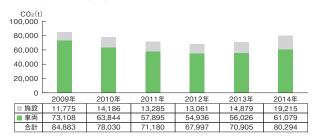


مازد

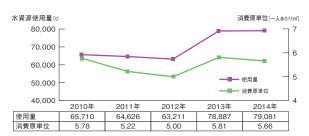
CSRデータ 2014

[環境への配慮]

■ CO₂排出量実績推移



■水資源消費量と原単位



■ 電力消費量と原単位



■ コピー用紙消費量と原単位



■ 環境配慮型車両導入数

(単位:台) 新長期規制適合車 1,599 ハイブリッド車 66 CNG車 67 LPG車 549 メタノール車 合計 2,282

参考:グループ全車両から排出される大気汚染原因物質排出状況。 NOx(窒素酸化物)⇒ 前年比23%減 PM(粒子状物質)⇒ 前年比31%減

■ 環境関連認証取得状況

認証	会社名(取得数)	合計
ISO14001 (環境マネジメントシステム)	SBSロジコム(4)、SBSフレック(2)、 SBSフレイトサービス(16)、 SBSゼンツウ(5)、SBS即配サポート(2)	29
グリーン経営認証	SBSロジコム(2)、SBSフレック(3)、 SBSトランスポート(3)	8
東京都貨物輸送評価制度	SBSロジコム(☆☆)、 SBSトランスポート(☆)	2

■環境投資

(単位:百万円)

				(羊瓜・ロカロ)
投資項目	内容	2012	2013	2014
車両関連投資	CNG、LPG、ハイブリッド、重量車燃費基準達成車等	1,267	1,886	2,960
半闸风建仅貝	燃費改善(エコ・安全ドライブ研修等)	2	2	2
施設省エネ化などに伴う投資	デマンド監視・省電力照明等	4	1	141
地球環境保全投資	太陽光発電等	1,382	1,248	629
環境マネジメント	環境マネジメント登録・管理活動等	-	2	3
環境コミュニケーション	社内外への啓発・報告資料作成等	3	3	4
	2,658	3,142	3,739	

■ 再生可能エネルギー送出量

施設名(会社名)	推定発電量/年(kWh)	施設名(会社名)	推定発電量/年(kWh)			
芝山太陽光発電所	3,065,419	君津支店(ロジコム)	322,140			
芝山第二太陽光発電所	852,432	吉川支店(ロジコム)	267,624			
野田吉春物流センター(ロジコム)	557,546	高崎営業所(ロジコム)	193,284			
千曲物流センター(ロジコム)	599,387	小田原支店(フレイトサービス)	252,000			
川越物流センター(ロジコム) 848,260 西日本ロジスティクセンター(エーマックス) 6						
合計:7,570,201						

■ SBS即配サポート静脈物流取扱量

品目名称	全処理量(単位:t)
廃プラスチック類	6,338 (219)
再生プラスチック	35(18)
金属くず	1,417(126)
木くず	404 (139)
紙類・その他	1,483 (283)
合計	9,677 (785)

()内はSBSグループ処理量

[安全の確保] -

■ Gマーク取得状況(安全性優良事業所認定)

会社名	新規取得 事業所数	既取得 事業所数		Gマーク対象 事業所数	Gマーク 取得率	会社名	新規取得 事業所数		Gマーク取得 事業所数計	Gマーク対象 事業所数	Gマーク 取得率
SBSゼンツウ	6	40	46	46	100%	SBSフレイトサービス	0	10	10	15	67%
SBSロジコム	3	21	24	34	71%	SBSトランスポート	0	7	7	7	100%
SBSフレックネット	2	12	14	21	67%	SBSグループ合計	12	95	107	132	80%
SBS即配サポート	1	5	6	9	67%	全国のトラック運送事業所	(2014/12時	点)の取得率	三25.3%(出	典:全日本トラ	ック協会)

■事故件数

(2014/1~12末)

2014年度重大事故件数	2件

[社会との調和・健全な経営] -

■ 人材育成取り組み状況 SBSグループ研修実績(2014年度)

(単位:人数)

	部長研修	103	中堅社員	23		中途入社フォローアップ	11	営業力強化PSS	24		CSR報告書を読む会	68	
	管理職アドバンス	23	社会人3年目	15		メンタルヘルスI	29	営業力強化ADS	24		リスクマネジメント	58	
階	管理職基礎	35	新入社員フォローアップ	27	テー	メンタルヘルスⅡ	27	ロジカル・シンキング	22	専門	コンプライアンス(経営)	58	
層		24	新入社員	31	マ別	管理·監督職物流研修I	23	コーチング	21	テーフ	コンプライアンス(推進)	16	
催	監督職ステップアップ	22	現場リーダー強化I	14	研修		管理·監督職物流研修Ⅱ	21	アサーション	23	マ研修	リスク・安全(運輸)	142
	監督職基礎I	28	現場リーダー強化Ⅱ	14		物流基礎研修	30	物流センター長	15	1110	リスク・安全(労務)	141	
	監督職基礎Ⅱ	23	現場リーダー強化Ⅲ	13		営業力強化アドバンス	18				情報セキュリティ	41	
						合計:1207名							

■ 品質系認証取得状況

認証	会社名(取得数)	合計
ISO09001 (品質マネジメントシステム)	SBSフレック(39)、 SBSフレイトサービス(16)、 SBSゼンツウ(16)	71
ISO27001 (情報セキュリティマネジメントシステム)	SBSロジコム	1
プライバシーマーク	SBSトランスポート、 SBSスタッフ、SBS即配サポート、 マーケティングパートナー	4
JAS有機農産物小分認証	SBSゼンツウ	2
引越安心マーク	SBSトランスポート	1

■ コンプライアンス相談窓口 相談件数(2014年度)**

相談内容	件数
法令・社内ルールに関するもの	15
職場の人間関係に関するもの	19
その他	21
合計	55

※従業員が直接相談できる社内・外に設置された窓口への合計相談数

健全な経営

SBSグループは、健全な経営を目指し、コーポレート・ガバナンス(企業統治)の強化を通じて経営の迅速化と効率化を図り、健全性・透明性を確保し続けることで、信頼される企業としてステークホルダーの期待に応えていきます。

■ コーポレート・ガバナンス

持続的成長を目指して

コーポレート・ガバナンス・コードによって、上場企業には、社会に対する責任ある態度と規律ある具体的な経営行動が求められています。また、投資家には、スチュワードシップ・コードの導入によって、企業とその事業環境(財務情報以外の情報も含めた)に関する深い理解が求められています。SBSグループでは、このような背景に鑑み、コーポレート・ガバナンス・コードの原則に準じた適正なガバナンス体制の構築と投資判断に有用な情報の整備を図っていきます。

第29期定時株主総会

SBSホールディングスは、2015年3月25日に第29期 (平成26年1月1日~平成26年12月31日)定時株主総 会を開催し、付議した3つの議案が決議されました。

【決議事項】

- 1.取締役6名選任の件
- ※現任の5名に社外取締役1名が加わり、 6名体制に。これにより社外取締役が2名 体制になりました。
- 2.監査役1名選任の件
- 3.補欠監査役1名選任の件



■コンプライアンス

SBSグループ コンプライアンスプログラム2014

SBSグループでは様々なカリキュラム・ツールでコンプライアンスを推進しています。

【啓発研修】

- •階層別研修(9回)
- •経営層向けコンプライアンスセミナー(2回)
- •グループ推進委員向けコンプライアンスセミナー(1回)
- •情報セキュリティ意識づけセミナー(2回)
- •パートアルバイト・入社時研修(随時)



【啓発ツール】

- •コンプライアンスマニュアル
- •コンプライアンスカード

【啓蒙・エンゲージメント醸成】

- •コンプライアンス通信(毎月)
- •グループ報コラム(季刊)
- •コンプライアンスアンケート(1回)

【相談•通報】

相談・通報ダイヤル(常時)

【企画·推進】

- •コンプライアンス会議(2回)
- •相談・通報窓口新ポスター作成・貼付
- •コンプライアンスマニュアル改定案作成
- •啓蒙ツール開発(新啓蒙冊子、ビデオ開発)







第三者意見

関西大学社会安全学部 教授 中村 隆宏 プロフィール

専門は、安全に関するヒューマンエラー・ヒューマンファクターズ。

1998年大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程単位取得後、退学。(独)労働安全衛生総合研究所(旧産業安全研究所)主任研究員を経て、2010年関西大学社会安全学部に着任。教壇に立つかたわら、産業現場を中心に研究活動に取り組む。



景気は回復傾向にあるとはいえ、物流業界に関しては、明 るい材料はあまり多くはない。規制緩和に端を発した業界 内の競争は熾烈を極め、深刻な事態は長期にわたっている。 以前にも増して高まる顧客のニーズはさらに細分化・多様 化が進み、大きなビジネス・チャンスとなる一方で、業界内に 新たな「消耗戦」の場を作り出す。物流の「要」であるドライ バーをはじめ、職場の高齢化は社会全体の少子化と相まっ て加速し、マンパワー不足も深刻である。また、例えば「定 常」を前提とした典型的なケースでも安全管理は容易では ないが、物流業界における「安全」の舞台の多くは「道路」と いう公共空間であり、自ら整備・改善を図ることが不可能な 部分が少なくない。さらに深刻なのは、一般の交通参加者を も巻き込んだ重大な事故へと発展する可能性があることで ある。近年は社会全体が「安全」に対して敏感になり、より質 の高い「安全」が求められるようになった。物流を担う企業 にとっても「安全」は経営の基軸であり、社会的使命となって いる。

人体の血流に例えられるように、物流は不可欠な社会インフラであり、とりわけ陸運はその中心的存在である。こうした観点から、SBSグループのCSRへの取り組みのなかでも、第一に「館内物流ソリューション」に注目したい。これは、大型複合施設等における集配の効率化を主な目的とするが、

納品車両の混雑緩和、施設周辺の渋滞緩和、そして館内セ キュリティの向上、館内での動線に関わる環境改善といった 副次的な波及効果も生んだ。その影響は、顧客をはじめ施 設利用者・施設管理者から近隣地域に至るまで広範囲にわ たり、新たな価値の創造につながるものである。加えて、今後 さらに高密度化・高効率化が進み、大型複合施設と同様に 多層化・複合化する都市構造に対して、館内物流ソリュー ションで得られたノウハウを応用できる可能性もある。また、 物流における安全については運転時の事故防止に注目が集 まりがちであるが、SBSグループでは運輸安全体制の構築 や安全教育、安全運転管理などへの取り組みに加え、健康 管理・安全衛生管理も重視する。これは、平時から安全・衛 生・健康を意識した自己管理を促す仕組みであり、ひいては QOL(quality of life)の維持・向上にもつながるものと期 待される。さらに、環境問題への対応、企業としての社会貢 献および人材育成に関しても積極的な取り組みが行われて おり、今後の更なる成果が期待される。

一方、組織の成長と拡大に伴い、未経験の課題に直面する例は少なくない。組織の成長と拡大は、良くも悪くも、組織内での様々な価値観の多様化がさらに進展することであり、企業風土の醸成は一朝一夕に成し得るものではない。今後の更なる進展を、引き続き注視したい。

第三者意見を受けて

SBSホールディングス株式会社 常務取締役 入山 賢一

中村先生には貴重なご意見を頂戴し、心より御礼申し上げます。

私どもは公道を利用する物流事業者として、全ての利用者のお手本にならなければならないと考えております。そして、ステークホルダーに安全・安心を提供していくことがSBSグループの社会的価値であり使命だと考えております。安全の確保と環境への配慮は、SBSグループが事業継続していく上で、解決すべき重要課題であり、それを果たすことが私たちの責務であることは言うまでもありません。これまで以上に真剣に取り組んでいかねばならないと考えております。



中村先生のご指摘は、組織の成長と拡大に伴って新たに発生する課題への対応努力も健全な企業の社会的責務であるとのご進言と受け止めております。社会的価値を損なうことの無いよう、今後も努力を続けてまいります。